



つむら ちようじろう
津村 長次郎 さん(安土町中屋)
大正 12 年 12 月 8 日生まれ

ご長男の妻恵子さんから一言

若い頃は田や畑仕事が好きで、よく子どもや孫と一緒に農作業を楽しんでいたね。飼い犬のおまめは毎日遊びにくるほど、おじいちゃんの部屋がお気に入り。100 歳まであともう少し、これからも元気でいてね。

ご本人から一言

90 歳から家の裏庭で始めた畑仕事が毎日の日課です。外に出ないときは、家の中にあるエアロバイクで足腰を鍛えています。孫やひ孫と一緒に風呂に入るのが大好きです。あわせて 10 人いるので、毎月のように誕生会があって楽しい毎日を過ごしています。



のぶそう
柴田 信三 さん(市井町)
大正 12 年 9 月 13 日生まれ

ほな、またな
お元気で！



かきうち す み お
ダイヤモンドフォト 垣内 壽美夫 さん

昭和 62 年から始まったふくよか写真展も 33 回目を迎え、今年は 189 人の皆さんにご協力いただきました。これまで 4,800 人以上のご高齢者を撮影してきましたが、被写体となったご本人やそのご家族からお礼や感謝のお手紙をいただいたりと、写真を通じて皆さんと出会えたことが、私のかげがえのない財産です。米寿を迎えたご高齢者の喜びの表情をぜひご覧ください。

米寿のご高齢者の日常と笑顔も一堂に
ふくよか写真展を開催

市内で米寿を迎えた人への写真撮影を行う八木町のダイヤモンドフォトでは、希望された人にお気に入りの生活風景や家族との写真を別途撮影されています。その写真を展示するふくよか写真展が 9 月 15 日(木)から 24 日(土)に、ひまわり館の 1 階ロビーで開催されました。今年はより多くの人にご覧いただけるよう、各コミュニティセンターでも展示します。

学区	日程
八幡	10月22日(土)～28日(金)
岡山	10月30日(日)～11月5日(土)
金田	11月4日(金)～9日(水)
馬淵	11月4日(金)～9日(水)
武佐	11月3日(祝)～9日(水)
桐原	11月6日(日)
北里	11月6日(日)～11日(金)
島(沖島含む)	11月6日(日)～12日(土)
安土	11月3日(祝)～9日(水)
老蘇	11月16日(水)～19日(土)

いつまでもわたしらしく生きるために

問 長寿福祉課 TEL (31) 3737・FAX (31) 3738

人生 100 年時代が到来し、長い人生を健康の維持とともに、生きがいを持って過ごすことが大切です。そのためには、日常生活で役割を持つことや趣味、地域活動の継続、セルフケア力の向上が重要となります。今回は米寿(満 88 歳)、白寿(満 99 歳)の長寿を迎える皆さんにお話を伺いました。

白寿の喜び

おじいちゃん、おばあちゃん
いつまでも元気でね



西川 ツネ さん(大工町)
大正 12 年 7 月 26 日生まれ

ご本人から一言

91 歳からデイサービスに通い始め、訓練のおかげで歩けるようになりました。今では山にも登れるようになり、年を重ねるたびに元気になっています。家族や近所の人、施設の人たちなど周りの人に恵まれ、皆さんとお話をすることが元気の源。子どもたちが立派に育ってくれたことが私の誇りです。

ご長男孝博さんから一言

菊の花を育てるのが好きなお母さん。夫婦仲がよく、いつも笑いが絶えない家庭だったね。父親に怒られてもいつもやさしく寄り添ってくれました。めんどろをよく見てくれてありがとう。これからもよろしくね。



川口 よしさん(加茂町)
大正 12 年 8 月 30 日生まれ

ご本人から一言

趣味は読書とドライブ。運転免許証を自主返納するまでは、毎月 1 回はドライブを楽しんでいました。若い頃は戦争での 3 年間の兵役を中国で経験。年を重ねて、欲も得もなくなったことで、長生きができていのかと感じています。



みずいわ ひろとみ
瑞岩 博臣 さん(安土町下豊浦)
大正 13 年 2 月 23 日生まれ

市では、米寿または白寿を迎える人に敬意をお伝えするため、お祝い品などを贈呈しました。

白寿(99 歳)・・・お祝い金、シャボンフラワー(せっけんの造花)、お祝い状

米寿(88 歳)・・・写真撮影または静岡茶(玉露・煎茶)

「わたしらしさ」 見つけてみませんか？

市では、株式会社ジチタイアド（福岡市）との官民協働により、「わたしらしさ発見ノート～これまでの自分とこれからの自分へ～」を作成しました。このノートは、自分自身のこれまでの人生を振り返りながら作成することで、残りの人生を有意義に使い、自分らしく生きるためのきっかけづくりになります。ぜひご活用ください。



配布期間 11月1日(火)から

配布場所 各コミュニティセンター、市役所本庁舎1階情報公開コーナー、長寿福祉課 ほか
※市ホームページからもダウンロードできます (☎ 23794)。
※部数に限りがあります。なくなり次第、配布を終了します。



自分が持てる力を活用して、 最期まで自分らしく生きるために つるぼう けんそう 鶴房 健蔵 さん(鷹飼町)

誰もが皆、いつかは人生の終わりの時期を迎えます。その時が来るまでをどのように過ごしたいか、皆さんは考えたことがありますか。今回は、今年米寿を迎えられ、今もなお精力的に湖国の情景を描き続ける鶴房健蔵さんに、自分らしく生きるための秘訣をお聞きました。

「人とのふれあいを大切にすることが私の生きる力になっています」と話す鶴房さんは、安土町下豊浦の西の湖すてーしよんを拠点に活動する絵画愛好家グループ「八美会」を主宰しています。軽トラックに画材を載せて、写生に出かけ、自宅のアトリエで創作に励む鶴房さんは、近江八幡の水郷や西の湖、沖島をはじめ湖国の情景を油絵で表現しています。今年9月、米寿の節目に市文化会館で開催した個展には、大勢の人が訪れ、人とのふれあいを実感することができたと話します。

絵を描くことについて鶴房さんは「絵の上手・下手は関係ありません。自分自身の『やってみたい』という気持ちを人に伝えるため、創意工夫する目でものを見つめることが大切です。完成した絵を見て面白いなと褒めてもらえたりすることは喜びにつながります。褒めてもらえるということは、子どもでも大人でもうれしいものですよね」と話します。

学校の先生や農家、主婦など多様な仲間が集う八美会では「みんなが先生」という気持ちで取り組んでおり、「それぞれの個性が、人に何かを教えたり、力を与えたりすることにつながります」と仲間から刺激を受けながら日々創作に励んでいます。

大きな作品になると、100号のキャンバスを相手に、2〜3か月かけて創作に向き合う鶴房さん。絵を描き続けるために、健康にも気をつけています。

「妻が畑で育てている野菜を毎日食べ、毎朝散歩をしています。田んぼに白さが舞い降りる光景や道端に咲く花の美しさなど、普段何気なく見ている風景でも、絵で表現できないかと考えを巡らせながら歩いています」と季節や自然の移り変わりを面白く感じることでできる喜びを味わう鶴房さん。地元では、87歳と88歳の戌年と亥年の人の集まり「戌亥クラブ」に参加し、年2回楽しく交流。地域とのつながりも大切にされています。

「おかげさまで」という気持ちで「楽しい日々を過ごしている」ことが生きる原動力。この気持ちが最期まで続くといいなと願う鶴房さん。これからも自分らしく生きるために、湖国の情景を見つめ続けます。